

# 2024年頭所感

## 国土交通省九州地方整備局

### “DXやICT施工などの生産性向上”を更に推進

国土交通省九州地方整備局

局長 森戸 義貴

取り込むことが日本の持続的な成長と発展に向けてますます重要です。

近年では令和3年8月や昨年7月の梅雨前線による九州北部での災害など、九州地方は7年連続で大規模な浸水被害が発生しており、治水対策の強化は喫緊の課題です。昨年3月には六角川水系が九州で初となる「特定都市河川」に指定されました。流域のあらゆる関係者が連携して減災

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆さまには日頃より、九州地方整備局の進める国土交通行政の推進にご支援、ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。

九州は海に囲まれ、中国の上海、韓国ソウルといった東アジアの大都市から500-1000km圏内に位置しており、東アジアの概ね中心に位置しています。そのため、ゲートウェイ機能を更に強化し、恵まれた地理的環境を活かすことで、今後もアジアの経済成長を九州の産業発展に

県と佐賀県が有明海沿岸道路で繋がり、三池（みいけ）港や佐賀国際空港などの交通拠点との連携強化が図られるなど、更なる地域経済の活性化が期待されています。昨年11月には高規格道路である島原道路の一部を構成する森山拡幅の森山東ICと森山西IC間が開通し、長崎県とともに進める島原道路の整備でも広域交通ネットワークの形成による地域産業活性化や観光振興が期待されます。

一方、今年4月に建設業に対する罰則付きの時間外労働規制が適用となります。地域の建設業の維持・発展のために、週休2日をはじめとする「働き方改革」や、CCUSの普及促進など建設業従事者の「処遇改善」、DXやICT施工などによる「生産性向上」の取り組みを更に推進していく所存です。

最後にになりましたが、本年が皆様にとりまして、実り多い年になりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

また、令和4年11月に有明海沿岸道路の大野島（おおのしま）ICと諸富（もろとみ）IC間が開通し、初めて福岡

より暮らしやすく、安全で安心して生活ができる長崎の実現に向けて

長崎河川国道事務所

所長 大場 慎治

た。心から厚く御礼申し上げます。



年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年も建設業界の皆さまには地域の安全・安心な生活、経済を力強く支えて頂きました

現在、当事務所では、西九州自動車道・松浦佐々道路をはじめとする道路整備や本明川の河川改修・ダム建設事業、雲仙普賢岳溶岩ドームの挙動監視等の砂防管理等を通じて、防災・減災、国土強靱化整備、半造川の引堤工事、高度成長期以降に整備されたインフラの老朽化対策等を計画的に推進します。

今年度は、11月12日（日）国道57号森山拡幅（森山東IC

Cと森山西IC間）の開通式を無事に執り行うことができ、被災後における迅速な復旧・復興に不可欠と言えます。他事業の事業中区間につきましても、1日も早い全線開通に向けて、引き続き全力で取り組んでいきますので、今後地域や関係者の皆さまのご支援、ご協力をお願いいたします。

本年も引き続き、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」予算等を活用しながら、西九州自動車道等の道路整備や本明川ダム本体工事の発注及び付替道路の整備、半造川の引堤工事、高度成長期以降に整備されたインフラの老朽化対策等を計画的に推進します。

最後にになりましたが、本年が皆さまにとりまして、実り多い年となりますことを心から祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

### 地域の発展に貢献する港湾空港の整備を目指して

長崎港湾・空港整備事務所

所長 松延 嘉國

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素より港湾行政の推進にご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、県内主要港に国際クルーズ船の寄港が再開し、港が多くの観光客で賑わう日常が戻ってきたと感じられる

年となりました。本年は長崎港においてもさらに寄港数の増加が見込まれることで、以前のような活発な寄港に備えて長崎港松が枝地区2バース化事業を着実に進めて参ります。

さらに、近年の激甚化・頻発化する台風や高波などへの対応、施設の老朽化対策のため、厳原港や佐世保港などにおける予防保全事業、長崎空港滑走路端安全区域（RESA）整備事業など、港湾や空港における国土強靱化、安全

港における国土強靱化、安心の確保にも引き続き取り組んで参ります。

令和4年12月に港湾における脱炭素化の取組を官民連携により推進するため港湾法の一部を改正され、「港湾脱炭素化推進計画」や「港湾脱炭素化推進協議会」の制度などが創設されたことを踏まえ、昨年8月に長崎港や佐世保港において「港湾脱炭素化推進協議会」が発足し、カーボンニュートラルポートの形成に向けての検討が進められているため、本取組を支援して参ります。

また、事業の実施にあたりましては、ICT施工対象工事の拡大、CIMの活用等に

よの施工現場のDX化を推進し、生産性の向上や工事発注における働き方改革の取り組みなど、担い手育成・確保につながる活動を建設業界の皆様と連携して進めていくことも、地域経済の発展に貢献する港湾空港の整備を目指して取り組んで参ります。

結びに、皆様にとりまして実りある素晴らしい年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

